

都市再生整備計画(第1回変更)

新大村駅周辺地区(第2期)

ながさき おおむらし
長崎県 大村市

令和3年9月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	長崎県	市町村名	オオムラシ 大村市	地区名	シンオオムラエキシユウヘンチク ダイ キ 新大村駅周辺地区(第2期)	面積	33.8 ha
-------	-----	------	--------------	-----	---------------------------------------	----	---------

計画期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度	交付期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度
------	-------------------	------	-------------------

目標

- 大目標 世界へ、そして未来につながる・緑と歴史の大舞台 新大村
- 目標1:花と緑に囲まれた駅づくり・拠点づくり
- 目標2:若者が集い・躍動感のある拠点づくり
- 目標3:便利で魅力的な新しい拠点づくり

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)

本市は、緑の多良山系と波静かな大村湾に囲まれた自然豊かな環境に加え、長崎空港や長崎自動車道大村ICなどの高速交通アクセスの利便性から、これまで順調に人口が増加し、県央の中核都市として着実に発展してきている。また、西九州新幹線の開業に向けた「新大村駅」の駅周辺整備など様々なプロジェクトが進行しており、観光やビジネスにおける県内有数の交流拠点として、今後更なる発展が期待されている。

一方で、全国的な人口減少や少子高齢化の進展によって、存続が危ぶまれる地方都市が増えるなか、本市では、その対策として、立地適正化計画を策定し、「ずっと住み続けられる都市づくり」に向けた人口密度の維持、「市民が便利で快適に生活できる都市づくり」に向けた市内の主要な拠点への都市機能を誘導し、以下の2視点から都市全体の再編を図る。

・生活利便型の拠点配置:市民の日常生活を支える拠点を3種類の生活利便型拠点として設定。地域間格差を是正するため、バランスの取れた拠点配置を行う。

・政策誘導型の拠点配置:新たな拠点形成を図る「新大村駅周辺」と「車両基地及び新駅(在来線)周辺」を政策誘導型の拠点として位置付ける。また、公共公益施設が集積する市民病院周辺や、長崎医療センター周辺を公益拠点及び医療拠点と位置付け、都市機能や居住の誘導を図る。

まちづくりの経緯及び現況

・大村市は、長崎県本土のほぼ中央に位置し、国際路線を持つ長崎空港や九州横断自動車道大村インターチェンジがあり、さらには、現在、西九州新幹線の開業を令和4年度に控えており、高速交通体系の結節機能を最大限に活かし、長崎県の中核都市として着実な発展を続けている。

・西九州新幹線開業に伴う新大村駅周辺地区は、平成26年8月に「大村市新幹線新大村駅(仮称)周辺地域まちづくり計画」を策定し、空港・インターチェンジと新幹線駅が車で10分圏内(大村ICまで1km、長崎空港まで4km)にあるという全国的にみても恵まれた広域交通利便性を交流創出に活用した整備方針が位置付けられている。

・また、新幹線の開業効果を最大限に活かすため、市民・事業者・行政の「オール大村」による取組として、平成31年3月に「大村市新幹線開業アクションプラン」を策定し、開業イベント等のプロモーション事業や、観光・商品づくり、移住・定住促進に向けた事業が位置づけられている。

・そういったなかで、新幹線開業に向けて計画的な都市機能の誘導や周辺整備が求められている。

課題

新拠点形成に向けた課題を以下に整理する。

- 1)本市の玄関口にふさわしい大村らしい魅力を持った空間づくりと活動の場の確保
- 2)広域交通結節点を活用した本市の定住・企業誘致等の拠点到ふさわしい都市機能の誘導
- 3)空港・新幹線新駅・インターチェンジへのアクセス向上と拠点地区にふさわしい都市基盤の確保

将来ビジョン(中長期)

・大村市総合計画では、「花と歴史につつまれた 未来へ羽ばたく 産業・交流都市」を目指しており、新大村駅周辺地区は、新たな交流拠点として位置づけられており、空港、新幹線新駅、インターチェンジなどの交通結節点へのアクセス向上を図り、機能性が高い魅力あるまちづくりを進めることを基本戦略としている。

・大村市都市計画マスタープランにおいて、新大村駅周辺地区は、本市の骨格を形成する「都市軸」の中央交差点に位置し、南北の市街地の一体性確保と東西の広域的交通ネットワーク形成の中心的役割を果たす地区と位置づけられており、以下のまちづくりが求められている。

○交通結節点としての機能に加え、来訪者の利便性向上に向けた情報発信機能や人々の賑わい・交流を創出するため、周辺の公共用地等を含め、市街地環境のあり方について検討する。

○空港や市内各拠点との連絡性向上を図るため、その他公共交通との連携や道路の配置など、交通体系のあり方を検討する。また、駅前広場や駐車場など、交通結節点機能の強化を推進する。

○新幹線新駅を起点に、人や地域の連携、賑わいの創出を図るため、市民・事業者等および市による協働のまちづくりを展開する。

・大村市立地適正化計画において、新大村駅周辺地区は、「都市拠点」及び「生活利便型・政策誘導型都市機能誘導区域」に位置付けられ、駅周辺における都市機能や交流機能の充実を図り、本市の新たな都市拠点の形成を図ることとしている。

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>①花と緑に囲まれた駅づくり・拠点づくり 空港・ICと新幹線駅などの高速交通の結節機能を活かした『賑わい交流拠点』を形成するため、まとまった公共用地を活用し、景観や環境に配慮した“花と緑に囲まれた”まちなか交流公園や森のみち公園の整備と併せて、市民参画のイベント開催やまちづくり活動拠点として活用し、本市におけるシンポル的な公園として、多くの来訪者へ大村らしさをアピールする。 さらに、まちなか交流公園には、防災設備を整備し、交通滞留者や地域住民の避難場所、災害時における防災機能の向上などを視野に入れ整備を行う。</p>	<p>(立地適正化計画P107第7章2(1)「都市機能誘導区域における都市機能の維持・増進に関する施策」関連) ・地域生活基盤施設(まちなか交流公園) ・地域生活基盤施設(森のみち公園) ・地域生活基盤施設(緑地) ・地域創造支援事業(新幹線駅前市民行動計画実施)</p>
<p>②若者が集い・躍動感のある拠点づくり 新大村駅周辺の公有地を含む地区を、土地区画整理事業により整備を行うことで、周辺住民の利便性及び生活環境の向上を図るとともに、計画的かつ戦略的に、商業、業務などの民間活力を活かした都市機能の立地を誘導し、若者が集い・躍動感のある新しい都市拠点を形成する。</p>	<p>(立地適正化計画P107第7章2(1)「都市機能誘導区域における都市機能の維持・増進に関する施策」関連) ・土地区画整理事業(関連事業) ・都市再生土地区画整理事業(関連事業) ・事業活用調査(新幹線駅前民間施設公募支援)</p>
<p>③便利で魅力的な新しい拠点づくり 交通結節拠点(都市計画マスタープラン)としての機能の強化を図り、市民や来訪者にとって使い心地が良く魅力的な拠点を形成するため、駅前広場の高質化、駐輪場、アクセス道路などの新たな都市基盤の整備を行うとともに、情報案内板やモニュメントなどの整備により、大村市の玄関口としてふさわしい便利で魅力的な駅前空間を確保する。</p>	<p>(立地適正化計画P107第7章2(1)「都市機能誘導区域における都市機能の維持・増進に関する施策」関連) ・道路(市道植松3丁目小路口町線) ・地域生活基盤施設(自転車駐車場) ・地域生活基盤施設(情報案内板・案内サイン・施設サイン) ・高質空間形成施設(市道竹松本町植松3丁目線) ・高質空間形成施設(東側駅前広場モニュメント) ・高質空間形成施設(駅前広場の高質化) ・高質空間形成施設(高架下照明施設) ・地域創造支援事業(Wi-Fiスポット整備) (立地適正化計画P119第7章5「立地適正化計画の見直し」関連) ・事業効果分析調査 ・立地適正化計画の見直し 5年ごとに立地適正化計画の内容についての評価を行う中で、目標の達成や施策の実施状況等を把握する必要があるため、都市再生整備計画の事業効果を分析調査した上で必要に応じた立地適正化計画の見直しを行う。 ・九州新幹線(西九州ルート)(関連事業) ・駐車場(関連事業)</p>
<p>その他</p>	
<p>【まちづくりの住民参加】 ○市民等の参画による施設の効果的活用の体制づくり まちなか交流公園・森のみち公園の活用や美化活動等について、市民や関係団体等の参加・協力により実施していくための体制づくりを図る。(アダプト制度・花いっぱい運動・イベント開催など) ○交付期間中の計画管理について 交付期間中において、各種事業を円滑に進め、目標達成のために確実な成果を上げるため、事業の進捗や指標の達成状況等について確認し、適宜、各事業の取り組みについて必要な見直しを図る。</p> <p>【官民連携事業】</p>	

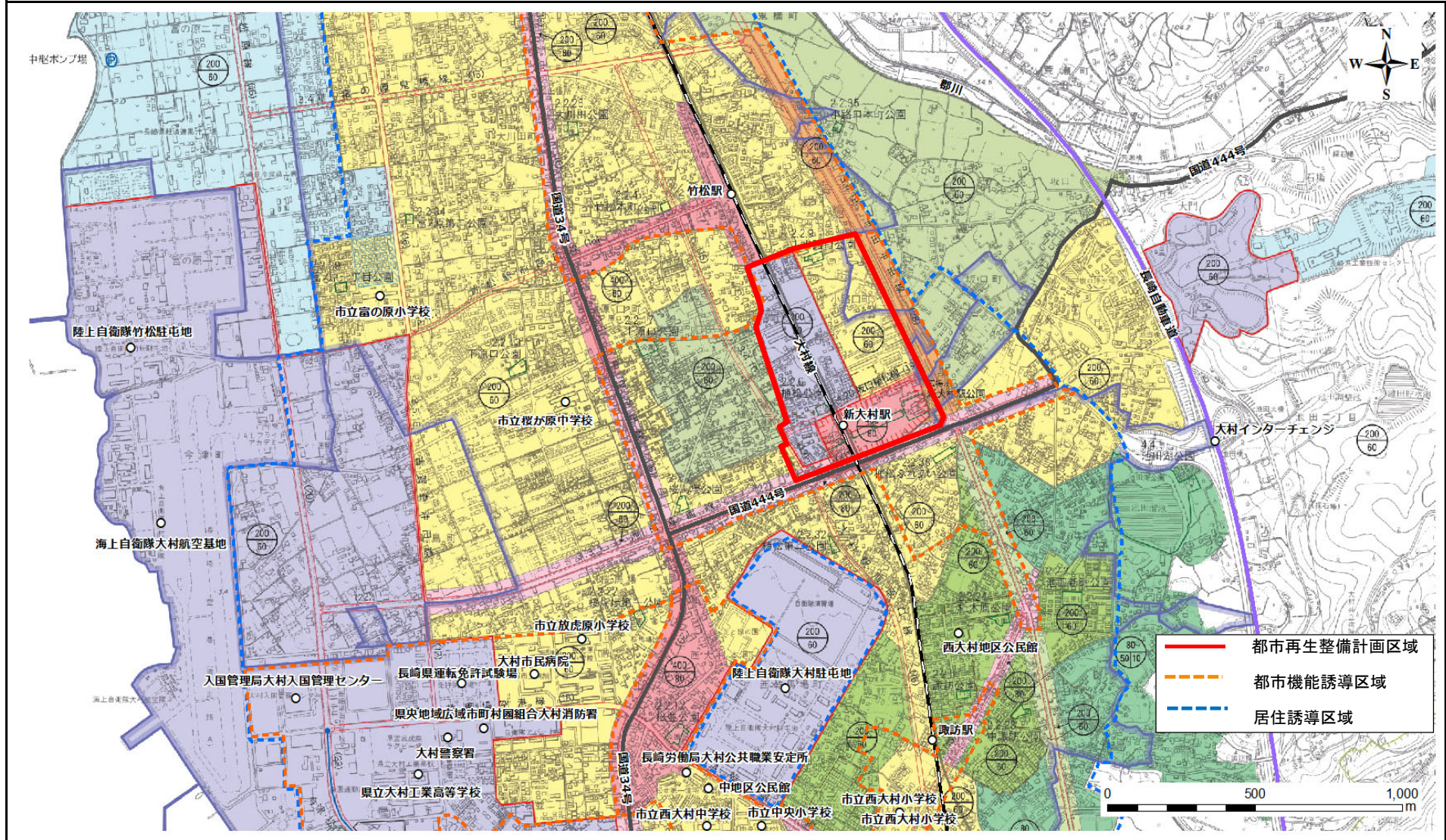
新大村駅周辺地区(第2期)(長崎県大村市)

面積

33.8 ha

区域

大村市 植松三丁目、小路口町、池田2丁目、坂口町、竹松本町の各一部



新大村駅周辺地区(第2期)(長崎県大村市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	■大目標 世界へ、そして未来につながる・緑と歴史の大舞台 新大村 目標1:花と緑に囲まれた駅づくり・拠点づくり 目標2:若者が集い・躍動感のある拠点づくり 目標3:便利で魅力的な新しい拠点づくり	代表的な指標	西大村地区住民の市民参加型まちづくり推進に対する満足度 (点)	2.94 (R2年度)	→	3.44 (R7年度)
			区画整理区域内の従業者数 (人)	9 (R2年度)	→	230 (R7年度)
			西大村地区住民の公共施設に対する満足度 (点)	3.01 (R2年度)	→	3.62 (R7年度)

